「愛は、すべてを完成させるきずな」　　2019年03月15日

コロサイの信徒への手紙3章12節～17節　あなたがたは神に選ばれ､聖なる者とされ、愛されているのですから、憐れみの心、慈愛、謙遜、柔和、寛容を身に着けなさい。互いに忍び合い、責めるべきことがあっても、赦し合いなさい。主があなたがたを赦してくださったように、あなたがたも同じようにしなさい。これらすべてに加えて、愛を身に着けなさい。愛は、すべてを完成させるきずなです。また、キリストの平和があなたがたの心を支配するようにしなさい。この平和にあずからせるために、あなたがたは招かれて一つの体とされたのです。いつも感謝していなさい。キリストの言葉があなたがたの内に豊かに宿るようにしなさい。知恵を尽くして互いに教え、諭し合い、詩編と賛歌と霊的な歌により、感謝して心から神をほめたたえなさい。そして、何を話すにせよ、行うにせよ、すべてを主イエスの名によって行い、イエスによって、父である神に感謝しなさい。

聖書の言葉は美しく、深い慰めを与えてくれる。美しい言葉は美しい心から、深い慰めは慰めを知っている心から生まれる。上記の言葉は、その典型的な例で、どれだけの人を励ましてきただろうか。

「著者」は、あなたがたは神に選ばれ、愛され、イエス・キリストの十字架と復活によって、罪が赦され、神と結びつき、聖なる者とされているのだから、憐れみの心、慈愛、謙遜、柔和、寛容を身に着けなさいと勧めている。これら5つの徳目は互いに受け入れ、共に生きるために必要な柔らかな心である。これらを身に着けよと勧められても、なかなか身に着くものではない。ただ、神に愛され、聖なる者とされていると信じる時、これらの徳目に目を向け、身に着けたいという思いになる。それが、互いに忍び合い、責められることがあっても、主イエスが赦してくださったように、あなたがたも互いに赦し合いなさいという行動になる。赦しを知る者が赦しを生きる者となるのである。

そして「著者」は、「これらすべてに加えて、愛を身に着けなさい。愛は、すべてを完成させるきずなです」と、5つの徳目に加え、愛を身に着けなさいと勧める。「愛」は、主イエス･キリストが十字架の上で現してくださった他者のために自分を献げる｢アガペー」である。憐れみの心、慈愛、謙遜、柔和、寛容に「愛」を加える。愛が、互いを結び合わせる絆となる。愛の絆で結び合うところに、キリストの平和が人々を支配するのである。「著者」は、あなたがたが神に選ばれ、教会に招かれたのは、愛に基づくキリストの平和を体験して、一つの体とされていることを、身をもって悟り、それを生きるためであると諭す。

コロサイ教会、そして、近隣の諸教会は、このようなキリストの愛が息づき、喜びが満ち溢れていたのであろう。だから、「いつも感謝していなさい。キリストの言葉があなたがたの内に豊かに宿るようにしなさい」と言う。喜びの心が感謝を生み出す。そして、喜び、感謝する時、キリストの言葉を生き生きと聞き取り、内に宿らせることになる。

「著者」は」「知恵を尽くして互いに教え、諭し合い、詩編と賛歌と霊的な歌により、感謝して心から神をほめたたえなさい。そして、何を話すにせよ、行うにせよ、すべてを主イエスの名によって行い、イエスによって、父である神に感謝しなさい」と勧める。父なる神を、霊をもって感謝し、賛美する。それは、主イエスの名によって、全てのことを行うことである。